

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人 リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 碧水		
所在地	北海道雨竜郡北竜町字碧水15番地の2		
自己評価作成日	平成22年11月11日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0197400047&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所で現在どんな事が起きていて、どんな状況になっているかなど運営推進会議に隠さず、透明性をもった事業所を目指しております。

個人情報の漏えいといった危険性も含まれるため、公表には神経を使いますが、出来るだけ偽りではなく、真実のみを伝えていける事業所となるよう努力をしています。

利用者が安心して生活ができる環境作りにも力を入れておりますが、家族の思いもあることから、利用者ご家族の思いを大切にしながらサービスの向上を目指しているところです。まだまだ気付かない点もあるかと思しますので、どうか遠慮しないでご意見などを聞かせていただければ、業務改善に役立つものと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 碧水」は国道のバス停から近く、自然豊かな住宅地に建っている。幼稚園の建物を改築し、1ユニットの環境は屋内外とも広々としており、4ヶ所のトイレや浴室もゆったりしている。開設時から行政と連携を図り、運営についてもその都度相談しながら協力関係を築いている。開設2年を経過する中で、ケア理念を全員で作り上げ、家族との関係作りと地域住民との触れ合いを大切にしている。管理者でもある施設長と職員は利用者が安心して暮らせる環境作りを熱心に進め、昨年の取り組み項目も改善されている。職員会議では職員も議題を取り上げて、業務の改善や介護計画の意見交換を活発に行っている。今後はゆったりした雰囲気の中で利用者と会話を交わし、ボランティアの導入も検討して活動を広げる方向で進めている。施設長は書類の整備の他、人材育成にも熱心に取り組みまれ、さらに研修の場を広げてケアの質向上に向けている。入居前からの医療機関の継続受診が可能であり、通院時には同行し医療連携体制の中で安心して暮らせるように支援している。また食事には毎月の出前や温泉レストランでの夕食、行事食や季節に応じたメニューを献立に入れ、食べる楽しみを提供している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で2つのケア理念を作ることができた。職員全員で共有していると思うが、日々の実践に本当につながっているかは少し不安なところもある	昨年の取り組みを踏まえてケア理念を全職員で話し合い、「…地域の人々の触れ合いを大切に…」との文言を入れて作成した。職員会議などで、笑顔で常に挨拶を交わしているかを確認している。理念はパンフレットに載せ、法人経営理念と一緒に要所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の職員や入居者は、地域行事やお祭り・町民運動会などといった行事に積極的にでかけ、地域の方々との交流ができています。また、近所のレクレーション等にも招待されており地域交流は日々出来ていると思う。	地域の行事や文化祭に参加して交流を楽しんでいる。近所の方が自宅の花を届け利用者と会話を交わす場面もあり、そのお礼に食事に招待するなど温かい交流もある。今後は幼稚園児との交流や近所のお店でカラオケを楽しむことも検討中である。	子供と触れ合う機会作りに期待したい。また、ボランティアの訪問で、趣味の手伝いや外出行事にも参加してもらような取り組みにも期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献にはまだまだといった感じですが、これからの課題であると考えております。認知症の方々の思いや理解を地域の方々に勉強会などを開いて地域住民等に認知症の相談などで貢献できればと考えています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回実施しており、委員の皆様にはホーム内での出来事や方針、また行事や人事の管理など多方面にわたりありのままの状況を報告しております。また、その中で委員の意見が出ればその意見を謙虚に受け止め、実践し改善に役立てております	運営推進会議では事業所の現況・行事報告の他、火災時の協力体制についても話し合っている。会議で出された意見は改善に向けて取り組んでいる。議事録はメンバーのみに渡している。	会議に多数の家族の出席が得られる方法や、職員も参加する中で運営推進会議の意義を再確認できるような工夫に期待したい。また参加していない家族にも議事録を送り、運営推進会議への関心を高めることにも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場担当者との関係は、常に密着できるよう保険者との情報の交換等をしており、積極的に出かけてもおり、事業所としての悩みなどにも相談できる環境でもあることから、大変助かっています。	施設長は役場を訪問し、制度的なことや書類手続の相談、また運営のアドバイスをもらっている。行政担当者も事業所を訪問するなど、緊密な協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中解放することを基本としており、夜間は9時頃から施錠し午前6時頃に玄関を開けるなど、身体拘束はしないという考えでサービスの対応しており、現在まで、身体拘束など行ったという事実はありません。	「身体拘束廃止委員会」を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修の内容を職員会議で共有し、施設長は禁止言葉を使わないように指導している。日中は玄関にセンサーを取り付けて出入りを把握し、一人で出た時は同行し気持ちを束縛しないように見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はホームにとってとても神経質になるところですが職員同士で虐待につながる行為を話し合いながら、虐待につながらないよう介護サービスに努めております。ちょっと事が虐待につながってしまう事あり得ますのでお互い注意しながらサービスに努めております		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成人後見人制度とは何かといった事は概要程度は理解していますが、この制度を使っている方々との接触もないことから支援の場面がありません。しかし、家族との対応において成人後見人制度のお話をする機会が時々ある程度で、活用とまでは至っておりません		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書から説明しており、金銭にからむじこうについては、特に時間をかけ、誤解がないように努めております。説明時間も結構かかりますが、後でトラブル等が起きないためですとご家族にお話しております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望などは玄関に御意見箱を設置して、職員の目が触れないところに設置しております。今のところ特にご意見箱に意見を入れていたといった事実はなく、口頭で言っていたことがありましたが、すぐその要望に対応しておりトラブルはない状況となっております。	ホーム便りを年に2回発行し、暮らしや写真を載せて報告している。家族の来訪時には報告の中で意見を聞く姿勢で対応している。当日の勤務者の名前を表示、個人ごとの面会シート、個別の外出支援など、家族からの意見を実行に移している。	家族と信頼関係を築く中で、些細な意見も吸い上げるために、無記名によるアンケート調査や大きな行事の後に家族間で話し合えるような場面作りの検討に期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場面で、業務改善を行うといった考えもあることから、職員の提案や意見など、どしどし発言してほしいなどをお願いしている状況であり、提案についても、できれば文章にして皆さんに説明できる状況で議論できる場面を与えております。	職員会議の前に職員から議題を出してもらい、業務改善などの意見や介護計画の提案を取り入れている。勤務表の希望は毎月聞いて調整している。今後は施設長との個人面談も考えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職種ごとの給与表を作成し、職員給与の定期昇給もこの度、実施する事が出来、職員に喜ばれています。近い将来は、頑張った人には、人事考課も取り入れ昇給などに格差を付けるといった事も考えております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、職場内外で実践しており、可能な限り参加し、サービスの向上につなげております。研修もただ受けてきたといった事ではなく、職員会議で出張にいった頭に残っていることをみんなの前で発表するといったトレーニングもおこなっております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会の会員でもあり地区理事にもなっていることから、近いうちに事業所ごとの交流会を行おうといった計画もあり、そこで事業所の悩みや職員間の交流の機会を作るといった取り組みをしていこうと計画をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の訴えにはよく傾聴することを基本とし、相手の世界に入っていってお話するように心がけております。本人が納得するまで時間もかかりますが、優しくあなたを大事にしますよといった態度が利用者の安心へと結びつけることになるものと考えています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の介護の悩み相談は意外と多くあります。認知症が発生してから意外と時間がかかっている状況が多くみられ、家族間の人間関係にひびが入ってからの相談が多く感じられます。ホームに入っても家族との関係は変わらず、むしろ重要であることを説明しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス開始前の相談では家族の現在困っていることを十分に聞き入れ、利用者との関係がどうだったのかなどを見極めながら、お互い困っている課題を解決してあげられるように支援するように努めています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護されるというストレスもあるという考え方から、決してしてあげる介護ではなく、自分で出来る事は自分で行ってもらい、出来ない部分だけをお手伝いするという介護サービスに努めています。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>契約時には、ホーム職員で出来る事は精神面では半分程度しか本人には支援が出来ないことを説明しており、後の半分は家族の精神的なフォローが必要不可欠ということで、決して一人ではなく家族の一員ということを意識させるように、面会などをお願いしております。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>生まれ育った地域にも行けるように、家族とも調整するなどしておりますが、家族の方の受け入れは大変厳しい状況でなかなか家に連れて行くことができません。市内や町内など行事の一部としてドライブなどをとりいれ、故郷の思い出話などをしながら帰ってきています。</p>	<p>近隣の市町村からの入居者が多いので、家族の協力を得ながら、お墓参りや馴染みの美容室に出かけている。職員の運転でドライブのついでに以前に暮らしていた近隣の方に合わせてもらうこともある。馴染みの人の来訪時にはお茶などを出し、会話を楽しめるように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホームで長く生活しているとお互いに家族という感じになり、病気一つにしてもお互い心配したり、入院した場合でも、病院まで職員と一緒にいってお見舞いをしていく状況が自然と出てきております。利用者同士出来ないことなど助け合うといった状況も見られています。</p>		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方には、後日、様子を見に行くなどして、環境に慣れたかなど面会にも言っております。また、伝達事項が十分ではおりますが、それでも忘れていた部分などもあり、後日その相談員とお話をして情報を伝えております。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活は自分らしく毎日生活できるように支援はしていますが、センター方式で個々に聞き取りを行った事があり、利用者本位の支援にはつながっているものと解釈しています	センター方式のアセスメントシートで利用者の経歴や趣味の情報などを把握し、会話から意向を引き出している。希望などは介護計画に反映させている。また発語が困難な場合は声かけをしながら思いを把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で入居前には、昔からなじんできた生活などを聞き取りながら介護サービスへのヒントにつなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の生活はその人らしく生活していただくため、出来ることや出来ないことを見極めながら支援していくとともに、心身の変化にも気づけるようコミュニケーションを取りながらその人の変化をとらえながら対応しています		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在職員全員で介護計画書を作れるように皆で頑張っている状況ですが、記録とアセスメントの考え方が職員に十分に解されていない事もあり記録に個人差が手出てきており指導に苦慮しております。	入居前の情報を基に暫定計画書を作成して1ヶ月後に見直し、状態に変化がない場合は、短期を3ヶ月、長期を6ヶ月ごとに見直している。モニタリング、カンファレンスを行い、介護計画に個人の希望や家族の意向を入れて、同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年より介護計画との整合性がたもてるように記録をしようと考えておりましたところ、センター方式によるアセスメントの方法が職員によく理解されおらず、記録が不十分な状況であり、最近になって担当者会議を開催し情報の共有化に努めているといった状況です		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握し、柔軟な支援に取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や花壇を用いての野菜作りや収穫作業による楽しみを共有できるように支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で適切な医療が受けられるように支援している	基本的には入居前のかかりつけ医を継続し、受診には職員が付き添い主治医と連携している。遠方の病院を受診する際には、事前に情報を家族に送り、家族から主治医に伝えている。職員は連絡ノートで受診情報を共有している。	

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は週一回午前中に勤務となっています看護師には普段、利用者の病気で心配となったことや、知識がなく知らない事などを相談しており、夜間や深夜に身体状況で判断がつかないといった状況の時などには、電話をかけて、相談できる心強い存在となっております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、いつもスムーズに市立病院側で対応してくれてもおり、病状の説明や、入院期間なども説明もあり、退院時は、必ず前もって連絡も入り、受け入れの準備がしやすく、一週間に1から2回程度は病院に向き様看護師等に様子を聞いてきていますので、比較的スムーズに退院もできています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、重度化したといった状況の方がいないことや終末期を迎えた方もいない状況ではありますが、家族へは施設の申込は必ずしておいてほしい事や身体状況によってはホームを退去する場合もあるといった事も説明しております。	入居開始時に、重度化や看取りの対応を重要事項説明書にも載せて同意を得ている。主治医の判断の下に看取りについて再確認しているが、長期に医療処置が続く場合は病院や医療設備のある施設を紹介している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが人命救助の方法について心肺蘇生法やAEDの使用方法について研修を受けており、緊急時の対応はとりあえずはできていると判断しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害は、予期せずして起こると判断しており、緊急災害の場合の電話連絡先や、ホームでの緊急時における対応としては食糧の確保もしており、3日間程度の自給自足が、可能である状況を確認している	消防署指導の下に、日中、夜間を想定した火災避難訓練を年に2回実施している。住民や隣接している交番の職員も参加し、避難誘導にかかる時間を計り、課題についても話し合っている。救急救命の受講は今年度中に全員が受ける予定である。	運営推進会議で住民の役割を取り決め、職員との連携で避難誘導を行う取り組みに期待したい。また、火災以外の災害時に備えてシミュレーションを行い、確認されることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導にしても、人格を尊重しプライバシーにも配慮して、耳元で排泄誘導するといった対応を実践しております。	職員会議では基本的な心構えやマナーと気遣いなどの接遇に関する話し合いを行っている。個人記録簿は保管場所を取り決めている。	内部研修や同業者と連携を図り、対応への気付きを学ぶなどの取り組みに期待したい。また、個人ファイル記録の取り扱いについて徹底する考えを示しているため、それらの実現に期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には普段の生活の中で、今日は何をしますかといった自立した行動ができるような対応しております。ドライブに行きたいと言えば、行きたい方たちを誘いながら楽しんで来ております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブ、また、外食や社会見学など利用者の考えの中で行事などを行っています。囲碁将棋もできる方もいますので、そのお相手になったり、夜は居酒屋の雰囲気を出し、お酒も提供するといった対応も実践しております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	だらしない服装は普段からしないような対応しております。また、女性にも化粧が出来る方たちには薄く化粧してもらい外出するといった事を実践しております。		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事でも個々に好き嫌いがあるようなので、好みの食材を聞いたりしながら献立に盛り込んでおります。また、利用者のお手伝いも声をかけながら無理のないようお願いをして一緒に準備や片付けを実践しています	献立は、給食担当(委員の)職員が利用者の希望や畑の収穫物を取り入れた内容で作成している。毎月の出前や温泉レストランでの外食、行事食や季節に応じたメニューを提供している。利用者は、漬物作りや食器洗い、配膳、下膳などができる範囲内で職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の皆さんの体重が入居当時より増えてきている状況が見られます。食事の量は少なめにはありますが、食材については少し高品質な物を食材にもりこんでおります。また、刻みの方にはミキサー食までできるよう対応しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の利用者には職員が毎食後ケアをし清潔保持に努めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり自力で排尿できるよう促しながら、時間を見計らって排尿誘導を行っている。それでも排尿間隔が難しい方においては紙おむつ等で対応しています	完全な自立排泄の利用者もいるが、排泄の声かけなどが必要な利用者へは、本人のサインや排泄チェック表などを基にトイレ誘導を行っている。トイレ排泄が困難な利用者は居室で衛生用品を交換し、個別の支援に努めている。退院後に排泄の感覚を取り戻したケースがある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方々や便秘傾向の方々には病院より便秘薬を投与していただき排便チェックや便の回数などを記録しながら、排便調整を実行している。また、水分摂取にも心がけており便秘対策を実施している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に添って、入浴のタイミングを図り支援している	入浴は毎日可能であり、およそ10時から16時までの時間帯で支援し、最低週2回入浴できるようにしている。重度化の利用者が湯船に入ることは困難な状況であるが、脱衣所の保温に留意しながらシャワー浴を実施している。入浴の促しは無理強いしない声かけとなるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況を観察しながら、必要時は速やかに居室へ誘導するなど、こまめな支援を心がけている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の大切さを確認し、声掛けや介助を行い確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた嗜好品、楽しみごとを把握して精神的な気分転換などの支援に努めています		

認知症高齢者グループホーム 碧水

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>地域のボランティアの方々と一緒に旭山動物園を見学してきており、また、その季節に合った行事等も考えながら、利用者様の意見を参考にして出かけております。そして、外出することで気分の転換にもなっているようです</p>	<p>今年は個別外出に力を注ぎ、紅葉や薔薇園、菜の花畑の見学、スーパーへの買い物に出かけている。全体では、家族と合同の食事・カラオケ会やひまわり鑑賞、お花見ドライブなどの外出支援を行っている。周辺の散歩では近所の方と話をしたり、雪だるまを作り玄関を飾るなど、冬場も楽しみを交えながら外気に触れている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人を尊重し買い物にも一人ひとりが外筆出来るよう声をかけており、所持金を使えるように支援している</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>はがきは家族から来ており、電話があった場合は、利用者へ説明し受話器を渡してお話をして頂いている</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホール・居室照明を明るくして安心してもらい歩行に支障の起きない程度の明るさを確保しているまた、温度にもこまめに調整している</p>	<p>全体的にバリアフリーであり、対面式のキッチンと一体になったリビングダイニングは、明るく、季節を感じさせる装飾や神棚を設けている。広いテラス窓に寄ってくる猫を愛でたり、庭先に出入りできる環境を整えるなど家庭的な雰囲気である。トイレ、浴室が分かるように表示している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>出来る限り本人やご家族の希望を把握して居心地良く過ごしていただいている</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れた物を居室に置いて居心地良く過ごせるように支援している</p>	<p>居室内には洗面台と押入れ収納の設備があり、利用開始時に使い慣れた家具の持ち込みを奨めている。整理箆笥や冷蔵庫、テレビ、仏壇などがあり、自宅との環境差を少なくした設えである。写真や置物なども思い思いに装飾されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>掃除機、包丁研ぎ、トイレ掃除、洗濯物干し、盛り付けなどの能力を引き出している</p>		

目標達成計画

事業所名:認知症高齢者グループホーム碧水

作成日:平成22年12月6日

市町村届出日:平成22年12月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策において、地域の住民と職員の役割分担が明確になっていない	災害時における役割分担を明確にする	運営推進会議において住民の役割分担を取り決め、町内会への協力要請を頂くよう働きかける。また、火災以外の災害時に備えて職員の内部研修でシミュレーションを行い役割分担を確認しておく	平成22年12月6日から1年間
2	36	同業者との連携が不足しており、職員の質に関わる内部研修を実施する	他の同業者との職員の交流を図りながら、業務の気付きを学んでもらう	一週間程度職員を交代して、他の事業所に出向いていただき、その事業所の良いところを学んでもらう。最終日には1時間程度時間を取り、研修の感想を発表していただき、良い点と悪い点なども聴かせていただき、業務改善に役立たせる	平成22年12月6日から1年間
3	10	家族の意向が良く分からない状況があり、事業所として不安がある	無記名式のアンケート調査用紙を作り、家族の意向を把握する	アンケート調査様式をつくり、家族の意見や要望などを取り入れながら、その結果を利用者のご家族にも周知していく	平成22年12月6日から1年間
4	2	地域の子供たちと触れ合う機会がない	町内にある保育園児たちと交流を図る	遊戯の発表会の前などに保育園に出向き、練習風景を見学に行くなどして交流をする	平成22年12月6日から1年間
5	2	地域ボランティアとの交流が少ない	地域のボランティアの方たちと積極的な交流を図る	地域において趣味の指導等ができる先生にお願いして、趣味的なクラブ活動をおこなう。	平成22年12月6日から1年間

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。